



学校だより



名草小ホームページ <http://www.wakayama-wky.ed.jp/nagusa/index.html>

感動を学びの始まりに

学校長 山本 紀代

約280年ぶりに和歌山市で見ることができた金環日食。安全面を考え、1時間目を自宅で観察する時間としました。

保護者の皆様のご協力により、「きれいだった!」「見たよ!」とわくわくした気持ちが声に表れていました。

また、通学途中に立ち止まって観察する子供が一人もいなく、安全に登校できたのも学校の目的を理解し、ご協力いただいたおかげだと感謝いたしております。

次は、6月6日「金星の太陽面通過」です。

今回は、登校中に観察できるので学年に応じて内容を説明し、貴重な天体現象を観察させたいと計画しています。

今年は、貴重な天体現象に触れる機会が2度もありました。この機会を捉まえて、子供たちの心が動くこと、また、壮大な宇宙に関心をもつ芽が生まれることを期待しています。

新しいことを知ることを、楽しいと感じることから学ぼうとする気持ちが芽生えると考えています。学ぶことの素地には、心が動くことが必要で、そのきっかけや機会をつくることが大事だと思います。

日々の生活の中で、心を動かす機会を増やせるよう教育活動を考えています。

観察や体験が「動」の指導とすれば、その一方で「静」の指導も必要です。

「静」の指導の中心に「読書」を考えます。

毎月第1土曜日は「うちどくの日」

すでに、配布済ですが、和歌山市教育委員会では、今年の5月5日から、毎月第1土曜日を「うちどくの日」と決め、30分から1時間程

度家族一緒に読書をする習慣が定着するための取組を始めています。

そのための書籍が、本校にもコーナーを作り置かれています。また、子供たちには「うちどくノート」も

配布しています。参観日等を利用して、どうぞ一度コーナーをご覧ください。

また、お子様が図書室から本(「うちどく」以外の書籍も含めて)借りて帰るようご家庭でも一声かけていただきたくお願いします。

読書は、子供の心を動かし、世界を広げると共に言葉を豊かにします。

心を動かす体験のひとつとして、「うちどく」を勧めています。

心地よい環境を

もうすぐ始まる水泳指導は、子供たちが楽しみにしている学習のひとつです。

ところが、本校の大プールには、プールサイドからの梯子が無く、身長によっては出入りの際にプールの縁で擦りむくこともありました。

この夏、念願だった梯子が付きます。出入りの不安が無くなり、水泳学習に集中できます。

また、夏休み中の着替えやタオルの置き場の屋根が随分傷んでいました。プールサイドの日よけは、毎年テントを張り替えながら間に合わせていました。

子供のためにと、ボランティアで学校環境の整備に何かとお力添えいただいている地域のUさんが新しく張り替えてくださいました。

気持ちよく着替えや休憩ができるようになりました。

